

学習のモデル「おれはかまきり」についての感想

おれはかまきり かまきりのゆい

おう なつだぜ

おれは げんきだぜ

あまり ちかよるな

おれの こころも かまも

どきどきするほど

ひかっているぜ

おう あついぜ

おれは がんばるぜ

もえる ひをあびて

かまを ふりかざす すがた

わくわくするほど

きまっているぜ

Cのモデル（自分の考えだけで、表現の効果について考えが及んでいない。）

かまきりゆいじがとても元気な感じがして、私も元気をもらえました。夏は暑くてはててしまうこともあるけれど、このかまきりのように元気を出して楽しく過ごしていけたらいいなあとこの詩を読んで思いました。【九八字】

この詩を読んで浮かぶ「素朴な疑問」

- ・この詩にはどのような表現技法が使われているか。
↓「かまを ふりかざす すがた」のところに体言止め
- ・この詩の特徴はなにか。
↓かまきりがしゃべっているという設定。口調が「せ」「だぜ」「だぜ」のように強い感じ。「かま」を強調している。

Bのモデル（素朴な疑問は解決して、表現の効果について触れている。）

「せ」とか「だぜ」という強い口調でかまきりの元気でたくましい様子が伝わってくる。暑さに負けないで堂々としているかまきりの姿から、私も元気をもらえた。私もどんな時でも自信をもって生きていきたい。【九六字】

「表現の効果をひまえて、詩の感想を書くため」の「私の問い」の例

- ・かまきりを「おれ」や「せ」「だぜ」のような口調にしたことで、詩全体の印象はどんなだったか。
←
- ・問いを解決するために、口調が柔らかい場合と比較して検討した。
←
- ・やあ なつだよ ぼくは がんばるよ…元気ではあるが、控えめな印象。
- ・おう なつだぜ おれは がんばるぜ…元気だけでなく、自信に満ち溢れているように感じられる。

Aのモデル（私の問いから考えを深めて、表現とその効果について考えながら、詩を評価している。）

「せ」「だぜ」のような口調を採用することで、かまきりが自信満々に話しているような印象を与えている。作者はかまきりがかまを振りかざす姿を自信の表れたとらえたのだろう。夏の日差しを浴びているかまきりの様子と強い口調が相まって、詩全体からきらきらとした熱い気持ち伝わってくる。【一二六字】